

# HIROSHIMA 通信

Hiroshima International Center

Vol. 81  
July 2013

## ひろしま国際センター会長が交替いたしました

当センターでは、平成25年（2013年）6月11日の理事会において、高木 一之会長（前広島経済同友会代表幹事、広島信用金庫会長）の後任として、永野 正雄氏（広島経済同友会代表幹事、テレビ新広島 代表取締役社長）が新会長として選任されました。（平成25年（2013年）7月1日付就任）

高木前会長には、平成23年（2011年）4月1日にご就任いただき、2年3ヶ月にわたる在任中には、当センターの国際交流・国際協力の推進に加え、昨年4月の留学生を一体的に支援する留学生活躍支援センターの設置や本年4月の公益財団法人への移行などにご尽力いただきました。

### <新会長よりひとこと>

国際社会におけるグローバル化が進展する中で、当センターが広島県における国際交流・国際協力の拠点として、多様化するニーズに的確に対応していくためには、県民の皆さまのご理解・ご協力をはじめ、民間企業・団体や行政なども加えた幅広いネットワークづくりが必要であり、センターのコーディネート機能の更なる強化が必要であると考えております。

そうした観点から、センター事業の積極的な推進を図ってまいりたい所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



会長 永野 正雄

## ホームページをリニューアルしました!

このたび、当センターの公益財団移行を機に、ホームページの刷新を図りました。当センターに求められている機能を、わかりやすくシンプルにレイアウトし、訪問される方々の必要としている情報にアクセスしやすいようデザインしました。

具体的には、新着情報の掲載を以前より多く掲載し、求められる情報毎に入口を分け、過去にはなかった事業報告のコーナーを設けて、当センターの活動を幅広くPRできたらと考えています。

既設のツイッターと併せ、様々な情報を発信して参りますので、ぜひ、ホームページをご覧くださいだければと思います。

(河内)



左：ツイッター  
右：ホームページ

## ◆ 目次

2面	交流部だより	9面	Upcoming Events News
6面	国際プラザニュース	10面	Hello Hiroshima
7面	こちら JICA デスク	11面	Hello Hiroshima
8面	サミット加盟団体だより	12面	Hiroshima Calendar ほか

平成25年度「ひろしま国際交流サミット総会」及び「ひろしま国際交流・貢献 親睦の集い」を開催しました。



上田議長による挨拶  
 広島経済大学 教授/  
 広島県青年海外協力隊を育てる会 会長



総会の様子

6月7日（金）にホテルセンチュリー21広島にて、「ひろしま国際交流サミット総会」及び「ひろしま国際交流・貢献 親睦の集い」を開催しました。

今年度は、国際交流・貢献活動に携わる広島県・広島市などの行政関係者、大学関係者、国際交流支援団体の方々や留学生支援を担当しておられる地元企業の方々など、総勢90名もの多くの関係者にお集まりいただきました。

総会では、上田議長の挨拶にはじまり、役員を選任、今年度のサミット事業計画(案)の発表や、当センターの事業紹介が行われました。なお、総会参加者の皆様からいただきましたアンケートやご質問を通してのご意見などにつきましては、今後の「ひろしま国際交流サミット事業」に活かして参りたいと思います。

その後の親睦の集いでは、開始直後から活発な情報交換や交流が進められました。途中、サミット会員である美和東ふるさと振興協議会 事務局長の下杉 孝氏から、北広島町の美和東文化センターを拠点として活力ある地域づくりをめざした同会の国際交流活動の紹介と当センターとの連携について、映像を交えてお話いただき、参加者の皆様も深い関心をよせておられました。（河岡）

ひろしま国際交流サミット役員について (敬称略)

議長	上田 みどり	広島経済大学教授/ 広島県青年海外協力隊を育てる会 会長
副議長	小溝 泰義	(公財)広島平和文化センター 理事長
副議長	浅村 学	(公財)ひろしま国際センター 専務理事
幹事	佐々木 重綱	特定非営利活動法人 福山ブルガリア協会 会長
幹事	安藤 周治	さくぎ交流協会 会長
幹事	奥村 和徳	(公財)東広島市教育文化振興事業団 常務理事

平成25年度ひろしま国際交流サミット事業計画

6月7日	サミット総会・親睦の集い
7月	地域分科会(広島中央・備後・備北)
11月	研究会[100人ワークショップ(仮)]
1月	地域分科会(広島中央・備後・備北)



下杉 孝氏による活動報告  
 美和東ふるさと協議会  
 事務局長



奥村幹事による挨拶  
 東広島市教育文化振興事業団  
 常務理事



親睦の集いの様子

## 「平成25年度 第1回ひろしま多文化共生連絡協議会」を開催

5月30日(木)に「平成25年度第1回ひろしま多文化共生連絡協議会」が開催されました。

この協議会は、県内における多文化共生の地域づくりを推進するため、外国籍県民の課題解決に向けた総合的・横断的な組織として、広島県主催により平成18年から開催されています。

協議会には15市町の多文化共生担当者と県警察本部、法務局、入国管理局、労働局、NPO 法人ビザサポートセンター広島等から計33名の方が参加され、広島県の平成25年度推進施策や市町で取り組んでいる施策等の情報交換や意見交換が行われました。

HICからは平成24年度の外国人相談窓口利用状況の報告や、通訳・ガイド又は翻訳を目的としたボランティアの活用について説明を行い、広島県からは平成25年度の多文化共生担当職員研修、市町等の取組支援事業について説明致しました。

今後とも、県内の自治体及び住民が一つになって多文化共生の地域づくりを進め、外国人の方々が住みやすい環境整備を行っていききたいと思います。(大藤)



会議の様子

## 能楽鑑賞教室

6月3日(月)、(公財)ひろしん文化財団様の主催事業である「青少年のための能楽鑑賞教室」に今年もご招待いただき、広島県在住外国人の方々と日本人のグループ、6カ国計20名の方々が能舞台上で演じられる美しい「能」と「狂言」を鑑賞しました。

「能・狂言」は、ユネスコから世界の無形文化遺産に選定されています。「能」とは、詩と舞と詞(ことば)とが溶け合ってひとつになった音楽劇であり、「能面」と呼ばれる独特の面を使う仮面劇です。「狂言」は庶民の日常的な出来事を笑いを通して表現する、科白(せりふ)・喜劇です。



舞台の前で記念撮影

最初に「呼声」という狂言を鑑賞しました。太郎冠者の無断欠勤に怒った主人が、次郎冠者と共に、太郎冠者の居宅に乗り込みます。調子の良い太郎冠者が様々な手で居留守を使う掛け合いの様子を滑稽に描いた作品です。次に鑑賞したのは「経正」という能です。僧の行慶が、一ノ谷の合戦で討死した平経正の霊を慰めるために、音楽葬を催していた際、弔いに感謝した経正の霊が現れ、懐かしげに琵琶を弾き、舞を舞います。しかし、経正に突然修羅の苦しみ襲い、我が身を見られることを恥じ、灯火を吹き消して、経正の霊は闇に消える。という物語です。

当日は、最前列の席を用意していただき、華麗な舞と鼓の音色の美しさに参加者のみなさんは大満足でした。参加された外国の方々からは「初めて見ましたが、演技や楽曲に感動した」「言葉が解りにくかったが、日本の伝統芸能は素晴らしい」などの感想もいただきました。ご参加ありがとうございました。(河内)

## “ひろしま菓子博”に通訳・ガイド、翻訳ボランティアを派遣しました



4月19日～5月12日まで開催された“ひろしま菓子博覧会”へ当センターの通訳ボランティア38名を派遣しました。海外の来館者が少なかったことや、一般受付業務にも携わっていただくなど想定外のこともありましたが、地元で開催する、またとないイベントに参加できた喜びの声も聞かれました。(野口)



## こちら広島県留生活活躍支援センターです

～県内の外国人留学生のみなさんの活躍を支援しています～

### 留生活活用セミナー・交流サロンを開催しました

6月21日(金)、県内の企業の皆さまに、外国人留学生を活用したグローバル戦略や、先進的な事業の展開例などをご紹介させていただきながら、外国人留学生の採用を促進するとともに、新たなビジネス展開による事業の拡大や発展をご支援させていただくことを目的として、「平成25年度 第1回 留生活活用セミナー」と、「企業・留学生交流サロン」を開催しました。

当日は、あいにくの雨降りの天候にも関わらず、60名を超える多数の企業・団体の関係者にご参加いただき、また、留学生を活用したビジネス展開の実例等の講演等もあって、大変有意義なセミナーとなりました。

セミナーに続いて開催した交流サロンでも、和やかなムードの中、参加した多数の留学生と企業関係者の間で活発な意見交換がなされ、結果的に時間を延長するなど大変盛況な交流会となりました。

6月21日(金)

◆ 留生活活用セミナー 13:30～15:30 (講演者の敬称略)  
(会場: 広島クリスタルプラザ2階 TKPガーデンシティ広島)

◇ 基調講演「グローバル人材の採用と活用について」

株式会社ディスコ 渡辺 大助

◇ 事例報告「企業における外国人留生活活用の具体的事例」

興南設計株式会社 森 彰

長沼商事株式会社 豊口 治基

◆ 企業・留学生交流サロン 15:50～17:00

(会場: 広島クリスタルプラザ6階 ひろしま国際センター交流ホール)



### これからの予定



#### ◇ 就活日本語研修

8月7日(水)から8月23日(金)の間、県内の留学生を対象とした就活日本語研修を、広島、東広島、福山の3地域において、それぞれ6日コースで開催します。

この研修によって日本企業への就職に必要な日本語能力を高めるとともに日本語の実践的な運用能力の向上を図っていきます。

#### ◇ インターンシップ

9月には、5日間程度のインターンシップを広島、東広島、福山の3地域において実施し、体験学習を通じて留学生の日本語の実践的な能力習得と就職意識の向上を図ります。

(※上記研修等の募集受付は終了しております。)



## ～ H I C外国人相談窓口 専門相談員紹介 ～

H I Cは広島県内で暮らす外国人の皆様が、安心して暮らしていただけるよう「外国人相談窓口」を開設しています。この窓口では、在留資格や社会保険・労働問題などの専門的な相談や暮らしに関する相談を、フィリピン語・英語・韓国語の3ヵ国語で提供しています。71号(平成23年1月1日発行)より、窓口で相談業務に携わる専門相談員の方々をご紹介しますが、今回は第9弾をお届けします。



外国人相談窓口

**【相談体制】平成25年4月1日から専門相談日を次のとおり変更しております。**

相談日時 毎週木曜日10:00～12:00,  
13:00～16:00  
(※変更前 毎週火・木・土曜日)

(専門分野)  
在留資格(ビザ他)、社会保険、労働問題  
(通訳)  
・フィリピン語  
・英語  
・韓国語

フリーダイヤル なやみ 聞れる 0120-783-806  
携帯電話からは 082-541-3888 (直通)

①名前(フリガナ):車 智善(チャ ジソン) /  
国籍:韓国

②日本語を学んだきっかけ

「お元気ですか? 私は元気です。」私が高校生の時、韓国で大ヒットした岩井俊二監督の映画「Love Letter」の有名な台詞です。以前から日本語に興味がありましたが、本格的に日本語を勉強し始めたのは、この映画がきっかけです。最初は日本語のカタカナや漢字が難しくてやめたいと思う時もありましたが勉強すればするほど楽しくなり、諦めず続けてこられました。そのお陰で現在、広島で働くことが出来、とてもラッキーだと思っています。韓国語も難しいといわれますが、それでも諦めずに勉強し続ければ、きっと皆さまにもよい結果が訪れると思います。

③専門相談日時

毎週木曜日 10:00～12:00, 13:00～16:00

④ひと言

私自身初めて日本に来たとき、言葉や各種手続きなどで困った経験があります。同じように悩んでいる外国の方のために、HICの外国人相談窓口で在留資格や社会保険、労働に関する相談について通訳を行っております。もっと楽しい広島での生活のために気軽にお電話またはご訪問ください。



## ホストファミリー 募集中!

海外から研修のために来日している研修員や留学生を家族の一員として受け入れてくれる「ホストファミリー」を募集しています。海外の人と接すると、自分の日常の中にたくさんの「!」や「?」があることに気づかされます。家庭の中での異文化体験にチャレンジしてみたい方、お待ちしております。(担当：溝手・河原)



### 《平成25年度ホームステイ参加予定者》

8月	トルコの大学生, 広島大学の留学生, アフリカの JICA 研修員
9月	オーストラリアの高校生, アフリカの JICA 研修員
10月	中国・ベトナムの日本語教師, 広島大学の留学生, 中南米・アフリカ・アジアの JICA 研修員
11月・12月	中南米・アフリカ・アジアの JICA 研修員
1月・2月	韓国の大学生, 韓国の日本語教師, 中南米・アフリカ・アジアの JICA 研修員

※日程は変更されることがあります。

## 講習会開催!

### 「もしウチに外国人がやって来たら?! ~アフリカ編~」

8月17日(土), 10時から「アフリカ人がホームステイに来たけれど、どうすればいいの?」をテーマに、ホストファミリーのための講習会を開催します。アフリカ人研修員のホームステイ体験談やお国紹介, アフリカ人研修員とのホームステイ疑似体験にフリートーキングなど、たっぷり楽しめる2時間です。

ホストファミリーはできないけどアフリカには興味津々! という方の参加もちろんOK!  
是非下記までお申し込みください。(担当：溝手)



### ワールドクッキング教室の受講者募集中!

世界の料理や文化を気軽に体験することができるワールドクッキング教室は、引き続き前期の受講者を募集中です。教室は月1回, ①火曜日クラス②木曜日クラスの2クラスです。受講料は3回分, 4,500円です。興味のある方は是非, お問い合わせください。(担当：河原)

【今後の開催予定~前期】 ※11月から3月に後期を開催します。

	第3回 7月	第4回 8月	第5回 9月
日程	①9日 ②18日	①20日 ②29日	①10日 ②19日
料理	ケニア料理	台湾料理	ラオス料理

※日程や料理は、事情により変更となる場合がありますので、予めご了承ください。



### ★お申込み・問合せ先

公益財団法人ひろしま国際センター研修部  
〒739-0046 東広島市鏡山三丁目3-1 ひろしま国際プラザ内  
(電話082-421-5900 FAX082-421-5751)  
・事務室開室時間 月~金 9:00~18:00  
・情報センター・図書室開室時間 毎日 10:30~19:00 (平日13:30~14:30は閉室)  
URL : <http://hiroshima-ic.or.jp/hip/>  
E-mail: [hicc@hiroshima-ic.or.jp](mailto:hicc@hiroshima-ic.or.jp) (事務室), [hiccinfo@hiroshima-ic.or.jp](mailto:hiccinfo@hiroshima-ic.or.jp) (図書室)



広島から世界へ！ 6月下旬より、広島県出身の青年海外協力隊員10人がドミニカ共和国・ケニア・モロッコ・ジャマイカ・ペルーなど9カ国へ向けて出発します！



《青年海外協力隊》（※左から氏名・派遣国・職種）

大田 真弓	ケニア	エイズ対策
谷本 恵子	ドミニカ共和国	診療放射線技師
宇根川 杏子	モロッコ	看護師
空本 季輝	ペルー	野菜栽培
柚木 秀徳	エルサルバドル	理数科教師
久重 隆寛	ジャマイカ	防災・災害救護
横竹 歩	ドミニカ共和国	環境教育
大田 遥	タンザニア	コンピュータ技術
前田 奈緒里	ブータン	食品加工
森本 絵理子	ウガンダ	看護師

※昭和40年から平成25年5月末までの、広島県出身 青年海外協力隊派遣累計・・・ 840人

現在赴任中の広島県出身 JICA ボランティア(人)

区分	男性	女性	合計
青年海外協力隊	15	16	31
シニア海外ボランティア	17	0	17
日系社会青年ボランティア	0	0	0
日系社会シニアボランティア	0	1	1

平成 25 年 5 月 31 日時点

長い間伝えきれなかった感謝の気持ち

JICA国際協力推進員（広島県担当） 大塚善久

2013年5月某日。マラウイでの青年海外協力隊員時代の隊員同士が結婚するため、実家に帰省した。私はもともと東京の出身だが、今の仕事に就くため2年4ヶ月程前に、思い入れのあったここ広島へと引っ越してきた。私が広島に来たのには自分なりの想いがあるのだが、今回はその話ではなく、はたまた仲間の結婚式の話でもなく、私が高校を卒業したばかりの今から16年前のこと。

当時の私は、世界を一人で旅すると決意し、まずは資金を貯めるためアルバイトに打ち込んだ。輸入食材を扱う地元の食料品店で働く私に、「何のために海外放浪など危険なことをするのか理解出来ない」と、周囲の大人や友人たちも呆れ顔。しかしその中に、唯一私が海外に旅立つことを応援してくれるSさんという50代の男性がいた。Sさんはいつも「若いだから、失敗なんか恐れずに何でも挑戦してみればいい。生きている限り、いくらでもやり直しは効くから」と言うので、当時18歳の私に何度も夕飯をご馳走してくれ、世界の色々なことを教えてくれた。信頼出来る人生の先輩Sさんの存在にとっても感謝しつつも、次第にその優しさに慣れていってしまった私。

2年後、日本と海外を往復する旅生活は終わり、私は学生という身分に。正社員への誘いもあったのだが、アルバイトも辞め、その後Sさんと連絡を取ることも無くなり、それまでの感謝も自分の中で薄れてしまっていた。

広島に来てからというもの、当時の私と同年代の若者と関わることも多く、彼らの海外に対する想いを聞くたびに、蘇るSさんの存在。「あれ程まで未熟な私を応援し続けてくれたにも関わらず、私は自分のことばかりを優先して、まともに御礼も出来ていない。なんと失礼なことをしたのだろう」。そう思うと、居ても立ってもいられず、すぐに知り合いを通じて、Sさんの居所を確認した。Sさんは心臓病を患ったものの、復帰はまだ現役とのこと。

そして、5月某日。73歳になったSさんを訪ね、十数年ぶりに再会したのだった。若き日の恩人を前に、感謝の気持ちを伝え、これまで音信不通になっていたお詫びをすると、「私のことを覚えていてくれただけでも嬉しいのに、わざわざ会いに来てくれるなんて、こんなに嬉しいことはない。海外に行きたいと言っていた君はキラキラ輝いていた。だから世間の常識で君の可能性を潰してしまうことだけはしたくなかったし、何より自分が若い頃に出来なかったことを君に託していたのだと思う。しかもその後青年海外協力隊に参加したなんて本当に嬉しい」と言ってくれた。

一緒にランチをした後、私が「ここは大人になった私に払わせてください」と言うと、Sさんは笑いながら伝票を持って、「大人になっても君は、大塚君のままだから、そんなことは気にしないでいい」と。

私が青年海外協力隊に参加したこと、広島に来たことも含め、人生はあらゆる出会いと経験が何らかの形で影響して構成されていく。だからこそ、若い世代の挑戦を後押ししながらも、私が身を持って感じた感謝の気持ちを次世代に継承していくことも、私の重要な役割だと改めて感じた5月のひと時だった。



Sさんとの十数年ぶりの再会

【国際協力出前講座のご紹介】

青年海外協力隊経験者やJICA関係者が、開発途上国での活動や生活の様子など、国際協力に関する体験談を『出前』しています。この講座を通じて世界の途上国の現状について知るだけでなく、日本が今後守っていかなければならない文化についても一緒に考えていきましょう。学校関係に限らず、地域活動に関わる方々からのご依頼も是非お待ちしております。HIC配置の国際協力推進員までお気軽にご相談ください。

<http://www.jica.go.jp/chugoku/enterprise/kaihatsu/demae/index.html>

広島県JICAデスク大塚



## 広島シンガポール協会のご紹介



HIROSHIMA SINGAPORE ASSOCIATION

■ 広島とシンガポール共和国との相互理解を深め、文化、学術、経済など幅広い分野での交流を推進し、友好親善に寄与することを目的とした二国間交流団体です。

広島とシンガポール共和国との交流は、1991年8月に「シンガポール広島事務所」が開設されたことから急速に進展し、1994年10月の「第12回アジア競技大会広島1994」の開催などを契機に、より一層活発化するなか、民間レベルでの交流をはかるため、1995年（平成7年）12月に広島信用金庫を事務局として設立しました。

■ 広島シンガポール協会の特徴は、学生交流の支援を主体事業としているところであり、この事業は他の二国間交流団体にはないユニークなものと、各方面から高い評価をいただいております。

具体的活動としては、

- シンガポール国立大学生の日本企業体験研修のコーディネイト
- 国立シンガポール・ポリテクニク校日本語成績優秀学生の招待
- シンガポール国立大学日本理解研修生および引率教師の受入
- シンガポール日本語研修留学生奨学金制度の実施（平成19年4月～）  
等を年間を通して実施しており、当協会設立以来、延べ718名（平成24年6月末現在）のシンガポール学生を受け入れています。

■ 会員間の親睦をはかるとともに、協会活動の理解を深めてもらうことを目的に、定期的に総会（5～6月）、交流会（12月）、講演会（2～3月）を実施しています。

来賓には、シンガポール共和国駐日大使をはじめ、毎回シンガポールに関わりの深い方々にもご臨席いただくとともに、多くの会員のご出席をいただいております。

■ 2年に1回、会員の中から親善訪問団を組織し、シンガポール共和国に派遣しています。平成23年度には、第9回親善訪問として、「シンガポール・台湾友好親善訪問と交流・支援」を実施し、シンガポール外務省訪問、シンガポール国立大学への書籍の贈呈、広島で企業研修等を体験した学生達との交流会の開催、シンガポール独立記念祭（ナショナルデーパレード）へ参列しました。



### 会員募集のご案内

広島シンガポール協会では、随時会員を募集しております。シンガポール共和国との友好親善、国際交流に興味ある方のご入会をお待ちしております。

**年会費** 個人会員5,000円 | 法人会員10,000円 | 学生会員2,500円

ご連絡、お問い合わせは事務局までお願い致します。

【広島シンガポール協会事務局】

TEL(082)245-0512 FAX(082)241-0531

E-mail:tiiki@hiroshin9.jp <http://www.hiroshin.co.jp>

(〒730-8707 広島市中区富士見町3番15号 広島信用金庫 地域交流室内)

# Upcoming Events News No.125

平成25(2013)年7月分

※それぞれの会員限定のものもあります。主催者にお問い合わせ下さい。

日	内容
27 (土)	<p>『留学生日本語スピーチコンテスト in 広島 2013』</p> <p>広島で学ぶ留学生による日本語スピーチコンテストです。日本で生活してふと感じたことなどの日常的なことから国際問題まで、自由なテーマで留学生のみなさんに5分間の日本語スピーチを披露していただきます。</p> <p>時間 13:00～15:00 場所 広島経済大学立町キャンパス            参加費 無料 定員 100人            問合先 広島キワニスクラブ事務局 担当者 穂下 亜紀子 TEL: 082-227-5315            E-mail <a href="mailto:hiroshima@japankiwanis.or.jp">hiroshima@japankiwanis.or.jp</a> URL <a href="http://www.hiroshimakiwanis.org/">http://www.hiroshimakiwanis.org/</a></p>

平成 25 (2013)年 8月分

日	内容
25 (日)	<p>歓迎交流会</p> <p>トルコ国チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学から「日本語・日本文化研修旅行」で来日する学生の歓迎会を開催します。(学生6名及び引率教員1名が来日) 会員以外の方でも参加できます。参加をご希望の方は、事務局までお問い合わせください。</p> <p>時間 17:30～19:30 場所 未定            参加費 5,000円 定員 50人            問合先 トルコ・チャナッカレの会事務局 担当者 畑谷 勝彦(事務局長) TEL: 082-962-1330            E-mail <a href="mailto:t.canakkale@gmail.com">t.canakkale@gmail.com</a></p>

平成 25(2013)年 9月分

日	内容
7 (土)	<p>『ブラジルの日 Di Do Brasil』</p> <p>ブラジル料理や民芸品などのバザー、また、サンバやブラジル音楽のステージがあります。この度初めての試みですが、たくさんの日本人や外国人の方に日本にいて少しでもブラジルの文化に触れられる機会をつくりたいと思い開催するイベントです。たくさんの皆様のお越しをお待ちしております。</p> <p>Festa do Dia do Brasil            Dia 7 de Setembro das 16 às 21 horas            Local: Estacionamento 3 da Prefeitura de Akitakata            Teremos barracas com comidas, bebidas, artesanatos e produtos do Brasil. Ainda teremos apresentação de Samba, Show de Música e Dança Brasileira.            Será o nosso primeiro evento e uma oportunidade dos japoneses e de outros estrangeiros conhecerem um pouco da Cultura Brasileira.            Estaremos esperando a presença de todos.</p> <p>時間 16:00～21:00            場所 安芸高田市役所第3駐車場            参加費 無料            問合先 NPO 法人安芸高田市国際交流協会 担当者 明木 一悦(めいき かずよし) TEL: 0826-42-5630</p>

## HICからのお知らせ

- ★ 来る7月20日(土)17時～20時までの予定で、ボランティア英語通訳ガイド講習会(平和公園編)をひろしま国際センター交流ホールにて室内開催します。  
 来広された外国人へのボランティアガイドが適切に行われるよう開催するものです。講師には独自の指導法で定評のある、ひろしま通訳・ガイド協会理事の畠崎 雅子様をお迎えします。乞うご期待下さい！  
 (お問い合わせ先: 交流推進課 野口 (メール: [hic03@hiroshima-ic.or.jp](mailto:hic03@hiroshima-ic.or.jp)))
- ★ 10月5日, 11月9日, 12月7日に、テーマ別国際理解講座「国際的視点からみたエネルギーの問題と将来展望」を開催します。講師は、経済協力開発機構(OECD)や国際エネルギー機関(IEA)での勤務経験をもつ、東京大学公共政策大学院/政策ビジョン研究センター特任教授 芳川 恒志様をお招きします。  
 グローバルな視点からエネルギー問題について一緒に考えてみませんか! ?  
 (お問い合わせ先: 交流推進課 野口 (メール: [hic03@hiroshima-ic.or.jp](mailto:hic03@hiroshima-ic.or.jp)))  
 ※講座の概要はP12をご覧ください。

By Guillaume Lamothe

Yes, dear readers, it's true. After an amazing two years in this wonderful city (plus the one year which I spent in Fukuyama City teaching English), I will be leaving for the frozen mountainsides of Geneva, Switzerland. If it makes you feel any better (as I am sure you would need consolation upon hearing such desolating news), this was probably as much of a surprise for me as it is for you. Alas, graduate school calls, and it is time for me to take a bow and leave my place, which I enjoyed occupying immensely, to another.



But how to summarize three years into two pages? That was the question which I was faced with when asked to write this article. On the one hand, it should be easy: all I should have to do is list a succession of facts, maybe in chronological order: "I did this, and this, and this happened, and it was a wonderful three years in Japan." This style of writing, however, would hardly do my extended stay in this country justice, when it was so much more than the sum of all its parts. Of course, I had a lot of excellent, wonderful experiences here, but it is what these experiences taught me, rather than the experiences themselves, which I believe will truly stay with me for years after I leave (and, who knows, come back?) I learned in Japan, I grew up in Japan, I got married in Japan. And what's more, I believe I found my place in Japan.

It wasn't always easy. As many of you might have realized, I am in fact a member of that designated minority of people here that make up, well, everybody except Japanese people themselves: the *gaikokujin*. Naturally, this wasn't always my situation: I can assure you that, in my home country of Canada, I was definitely not a *gaikokujin*, and the transition was not such an easy one to make. In fact, becoming a *gaikokujin* was probably the most profound and impactful change to affect me in all of my stay here. This was not something that I expected. Japan, after all, has so many wonderful natural and cultural attractions: the old samurai and martial arts culture, the crazy eclectic anime culture, Sumo wrestling, the beautiful island vistas, the majestic mountains, cherry blossoms...so why do I give them all second fiddle to my learning to live as a "foreigner" in a society? Because, I think, I expected them. The cherry blossoms, mountains, sushi, etc., are, after all, exactly what is advertised in all of Japan's travel brochures and, like any other good future resident of the country, I had taken a look at them before coming. What was not advertised in the travel brochures, however, was that sense of isolation that I first felt when stepping on the Tokyo metro and looking around me, suddenly realizing that I was the only non-Asian person as far as my eye could see. For the first time in my life, I was a foreigner, a *gaikokujin*, and, what's more, I was a member of a visible minority.



Suddenly, I was never quite just an individual anymore; anything I did, anything I said, could be interpreted as being representative, not just of Canada, but of all Westerners in general. Wherever I went, I was rarely ignored, whether for good or for ill. I was constantly asked to talk about life in Canada, and about my impressions of Japan. Even this column, in which I have been boring you with my opinions for two years now, was only made possible through my being a gaikokujin.

This was the first time that I had ever occupied such a position in society. I was sought out as a source of information, of opinions, or of skills that, it was assumed at least, Japanese people didn't have. I was not quite normal anymore. This is a process that, I think, every foreigner, or at least, every Westerner, encounters when he or she comes to Japan, and everybody reacts to becoming a gaikokujin differently. Some people resent it and, as time drags on, become increasingly bitter at Japanese society for "not including them." Some people love it, go to all of the international relations events that they can, and remain eternally enthusiastic about sharing their culture with others.

Looking back, I think that I long vacillated between the above two extremes. Some days, I just wanted to blend in, while other days, I was just bursting with excitement to be giving a presentation on Canada. In the past year or so, however, I have begun to observe a peculiar change. For the first time, I now have Japanese friends and acquaintances that have no particular interest in the outside world. They do not speak English, they do not particularly want to learn it, and some of them, even, have never been abroad.

You see, initially, I met all of my Japanese friends (including my wife, actually!) because they had a particular interest in foreigners and the outside world. While I was (and still am) grateful for this friendship, I could not help but feel that I was still operating within my assigned gaikokujin role. To now have Japanese friends with no particular interests in foreigners is, I think, a reflection that I might have become able to move beyond it and find a more comfortable, more inconspicuous place in Japanese society. So here I am, I was just beginning to get really comfortable in Japan and I am leaving. Why? Well, simply because it is my deeply held belief that getting comfortable somewhere is a tell-tale sign that you should get out as soon as possible, because you have stopped learning as much as you could. While I am sure that Switzerland will bring its share of hardships and challenges, they are challenges that I look forward to, as I hope to learn from them, in the same way as I learned from the challenges that I faced here in Japan.



# Hiroshima Calendar

## Editor's notes:

Date	Event	Location
July		
7	Tanabata – fun, laid back celebrations with lanterns!	All across Hiroshima!
20	Sumiyoshi Fireworks Festival – Fireworks over Onomichi Harbor!	Downtown Onomichi; 7:30~9:30 PM
August		
6	Peace Memorial Day	Hiroshima City
24	Innoshima Pirate Festival (Fire Festival)	Innoshima Island, starts around 6PM

This will be my last update. In For the next edition, my successor will take over my position and, I am sure, ensure a smooth transition into 2014. It was a pleasure to write for the HIC Tsushin for these two years, and to receive all of your wonderful comments and encouragement in the mail. Until August, if you have any last questions or comments, please feel free to email me at [hic05@hiroshima-ic.or.jp](mailto:hic05@hiroshima-ic.or.jp)

## HIC交流部からのお知らせ

－テーマ別国際理解講座－ 「国際的視点からみたエネルギー問題と将来展望」の開催について

〔講師〕 東京大学大学院/政策ビジョン研究センター特任教授 芳川 恒志様

東日本大震災後のエネルギーの重要性が改めて認識され、また広く世界に結びついているエネルギー問題を基礎から考えてみませんか。プログラムの詳細や申込み方法は、HIC ホームページをご参照ください。

(お問い合わせ先: 交流推進課 野口 (メール: [hic03@hiroshima-ic.or.jp](mailto:hic03@hiroshima-ic.or.jp)))

(開催概要)

開催日	講義概要
10月5日 (土)	第1回「世界のエネルギー需給の現状と展望」(1) 13:30～15:00 グローバルな視点からのエネルギーの需給等、基礎的な理解を深めます。
	第2回「世界のエネルギー需給の現状と展望」(2) 15:20～16:50 現在直面するエネルギー課題を取り上げます。 「シェール革命」や「アラブの春」などの解説も行います。
11月9日 (土)	第3回「アジアのエネルギー需給の現状と展望」(1) 13:30～15:00 アジアのエネルギー需給の特徴、課題や世界に与える影響を解説します。
	第4回「アジアのエネルギー需給の現状と展望」(2) 15:20～16:50 まとめとして、①グローバルなエネルギー環境は日本にとってどのような意味があるのか、②今話題のミャンマーについて将来の経済発展を支える同国のエネルギー状況について、それぞれ議論します。
12月7日 (土)	第5回「エネルギー政策の課題」(1) 13:30～15:00 冒頭でエネルギー政策の基本に触れながら、日本の第一石油ショック後のエネルギー政策～日本のエネルギー政策について概観します。
	第6回「エネルギー政策の課題」(2) 15:20～16:50 エネルギー供給の海外依存度の高い日本にとって求められている政策等を議論します。 受講者による意見発表の場も考えています。



〒730-0037  
広島市中区中町 8-18 広島クリスタルプラザ6階  
Crystal Plaza 6F, 8-18 Nakamachi, Naka-ku, Hiroshima 730-0037, Japan

ご質問・ご意見などご遠慮なくお寄せください  
Any questions, suggestions, and criticism regarding HIC Tsushin can be addressed to:

TEL: (082)541-3777 FAX: (082)243-2001  
URL (Japanese) <http://hiroshima-ic.or.jp/>  
(English) <http://hiroshima-ic.or.jp/hice>  
E-mail: [hic@hiroshima-ic.or.jp](mailto:hic@hiroshima-ic.or.jp)

